

# 平成26年度 周南市友好親善訪問団報告書 (オーストラリア・タウンズビル市)



周 南 市



## あいさつ

周南市では、姉妹都市交流事業の一環として、友好親善と相互理解を深めるとともに、国際感覚の豊かな青少年を育成することを目的に、中高生を姉妹都市へ派遣する事業を行っております。

平成二十六年度は、オーストラリア・タウンズビル市へ中学生十名、高校生五名、市職員一名の計十六名を派遣しました。

タウンズビル市への訪問は、平成二年の姉妹都市提携以来、今回で十七回目となりました。団員たちは、事前説明会において、タウンズビル市についての学習、英会話講座、テーマ別にグループ学習をするなど、訪問に向けて準備を行い、期待と不安を胸にタウンズビル市へ出発しました。

現地では、言葉の壁は感じたようですが、さまざまな活動を通して、オーストラリアの伝統や文化を学ぶとともに、日本の文化を伝えるなどし、積極的な交流に努めてこられました。この報告書は、こうした団員一人ひとりのかけがえのない貴重な体験や感動をありのままに綴ったものです。

このたび、団員として参加された皆さんには、今回の体験で学ばれたことを学校や地域の多くの人たちに紹介していただくとともに、今後の本市の国際交流活動にも積極的に参加、協力され、将来、国際化社会の中で活躍されることを期待しております。

終わりに、本事業の実施にあたり、ご協力とご支援を賜りました学校関係者の皆様、タウンズビル市役所、生徒を受け入れていただいた、ライアン・カトリック・カレッジ、さらには、団員を温かいおもてなしで受け入れていただきましたホストファミリーの方々から感謝申し上げます。

周南市長 木村 健一郎

## 姉妹都市提携までのあゆみ

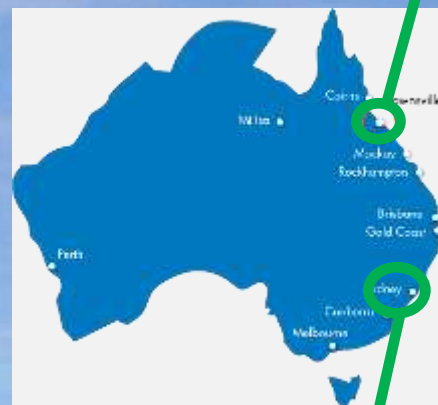
当時の徳山市では、「英語圏との姉妹都市交流で一層の国際化を」という、市民の声を受け、昭和62年(1987年)から相手先として、オーストラリアをはじめ、アメリカやカナダなどの諸都市について検討をはじめていました。

こうした中で、平成元年(1989年)に市内の企業を通じ、オーストラリア、クィーンズランド州政府駐日代表から相手都市としてタウンズビル市の紹介がありました。

その後、双方で検討の結果、人口や面積などの都市規模や、温暖な気候、国際的な貿易港を持っていること、また、美しい町並みの近代的な都市であることなど、多くの共通点があることから、協議が急速に進展し、平成2年(1990年)9月30日にタウンズビル市長一行をお迎えし、姉妹都市提携の調印をしました。

平成15年(2003年)4月21日、2市2町が合併して、新しく周南市が誕生した後も引続き交流を続けることとし、同年10月10日、周南市長一行がタウンズビル市を訪問し、再調印を行いました。

タウンズビル市



シドニー



Townsville

# タウンズビル市について

## Australia Queensland (オーストラリア キーンズランド)

### 市の概要

タウンズビル市は、オーストラリアの北東部に位置する港湾都市で、キーンズランド州では、州都のブリスベンに次ぐ第2の都市です。農業や鉱工業で栄える一方、農・鉱産物の積出港として重要な役割を果たしてきました。1896年当時、約3,000人の日本人が真珠貝採取やさとうきび栽培で北部キーンズランドに出稼ぎに来ていたことから、日本政府がオーストラリアで最初の本格的な領事館を開設した都市です。

市街地には、公園や街路樹が整備され、美しい町並みを形成しており、観光施設としては、サンゴの生息する水族館やリゾート基地としてのマグネティック島などがあるほか、世界最大の珊瑚礁があるグレート・バリア・リーフへの玄関口でもあります。

- 人口／約18万人
- 面積／約3,733km<sup>2</sup>
- 言語／英語
- 通貨／オーストラリアドル(AUD)
- 時差／+1時間
- アクセス／ブリスベンから飛行機で約2時間、シドニーから飛行機で約3時間



## 訪問日程

|                |   |   |   |
|----------------|---|---|---|
| <b>8/18(月)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 6:34</li> <li>● 10:00</li> <li>● 15:25</li> <li>● 20:15</li> </ul>                   | 周南<br>福岡<br>シンガポール  | 徳山駅発 (こだま 821)<br>福岡空港発 (SQ655)<br>シンガポール空港着<br>シンガポール空港発 (SQ221)   |
| <b>8/19(火)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 5:55</li> </ul> 終日   | シドニー  | シドニー空港着<br>シドニー市内観光 (オペラハウス、ハーバーブリッジ、セントメアリー大聖堂等)<br>ホテル宿泊  |
| <b>8/20(水)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 10:05</li> <li>● 12:50</li> <li>● 13:30</li> <li>● 15:30</li> <li>● 17:00</li> </ul> |  タウンズビル | シドニー空港発 (DJ1519)<br>タウンズビル市到着<br>リーフHQ水族館視察<br>トロピカル・クイーンズランド博物館視察<br>タウンズビル市役所訪問<br>タウンズビル市内視察 (キャッスルヒル等)<br>ライアン・カトリック・カレッジ到着<br>ホストファミリー面会<br>ホームステイ |
| <b>8/21(木)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 8:20</li> <li>● 9:00</li> <li>● 9:45</li> <li>● 13:20</li> </ul>                     |   | ホストスチューデントと学校へ、ホームルーム<br>歓迎会、校内ツアー<br>英語クラス、モーニングティー<br>ライアン生徒と交流会<br>ホームステイ  |
| <b>8/22(金)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 8:20</li> <li>● 9:00</li> <li>● 12:35</li> <li>● 13:20</li> </ul>                    |   | ホストスチューデントと学校へ、ホームルーム<br>ビラボン鳥獣保護園視察 (コアラ、カンガルー)<br>お別れ昼食会 (出し物披露)<br>英語クラス、ライアン生徒との交流会<br>ホームステイ   |
| <b>8/23(土)</b> | ● 終日  |   | ホストファミリープログラム   |
| <b>8/24(日)</b> | ● 終日  |   | ホストファミリープログラム   |
| <b>8/25(月)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 8:45</li> <li>● 10:35</li> <li>● 14:30</li> <li>● 20:50</li> </ul>                   | ブリスベン<br>シンガポール   | タウンズビル空港発 (DJ366)<br>ブリスベン空港着、乗り換え<br>ブリスベン空港発 (SQ236)<br>シンガポール空港着   |
| <b>8/26(火)</b> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 1:10</li> <li>● 8:35</li> <li>● 10:43</li> <li>● 11:30</li> </ul>                    | 福岡<br>周南  | シンガポール空港発 (SQ656)<br>福岡空港着<br>博多駅発 (さくら 546号)<br>徳山駅着   |



ページ

11

周南市立富田中学校 1 年  
安達 梨乃 Rino Adachi

13

周南市立鼓南中学校 3 年  
太田 光星 Kosei Ota

15

周南市立岐陽中学校 2 年  
杉村 美遥 Miharu Sugimura

17

周南市立太華中学校 2 年  
高橋 倅哉 Yukiya Takahashi

19

周南市立岐陽中学校 1 年  
田代 風花 Fuka Tashiro

21

周南市立岐陽中学校 1 年  
灘 裕貴 Yuki Nada

23

周南市立周陽中学校 1 年  
西岡 望愛 Noa Nishioka

25

周南市立菊川中学校 3 年  
林 じゅり Juri Hayashi

ページ

27

周南市立周陽中学校 3 年  
森重 蒼 Aoi Morishige

29

周南市立太華中学校 2 年  
渡辺 優志 Yushi Watanabe

31

桜ヶ丘高等学校晃英館コース 1 年  
石生 麻里亜 Maria Ishio

33

徳山工業高等専門学校 1 年  
河村 至紀 Yoshiki Kawamura

35

山口県立徳山高等学校 3 年  
小林 愛理 Airi Kobayashi

37

山口県立徳山高等学校 1 年  
伏谷 茜 Akane Fushitani

39

山口県立徳山高等学校 1 年  
渡邊 友希乃 Yukino Watanabe

41

周南市役所財務部課税課  
仲子 恵美 Megumi Nakako

# 友好親善訪問団活動の様子

in オーストラリア・タウンズビル市 8月18日～26日 同行者：仲子 恵美

8月18日（月）



徳山駅出発の様子



空港での写真

1日目。早朝に徳山駅を出発しました。福岡空港からシンガポールへ行き、飛行機を乗り継ぎました。乗り継ぎの時間には、広い空港の中でショッピングをしたり軽食を食べたりしました。中には宿題をしている子も。添乗員さんに教えてもらいながら入国審査の書類を自分たちで記入したことも、良い経験になりました。

8月19日（火）

2日目。周南市を出発してから丸1日が経ち、ようやくオーストラリアに上陸。今日はシドニー視察です。ミセスマッコリーズポイント、オペラハウス、ハーバーブリッジ、ロックス地区、セントメアリー大聖堂といった観光地を巡りました。雨が降ったり止んだりのあいにくの天気でしたが、団員たちは初めて見るオーストラリアの貴重な建造物や道行く人たちに興味津々でした。観光途中には、ガイドさんにオーストラリアのコインや交通のことなど色々と教わりました。そして、礼儀正しい日本人はオーストラリアや世界でとても好かれているのだという話も聞きました。日本人として誇らしい気持ちになりました。



オペラハウスをバックに記念写真



オペラハウス

セントメアリー大聖堂



レストランでの昼食

8月20日（水）

3日目。タウンズビルに到着すると、真っ青な空が目飛び込んできました。  
タウンズビルでは、まずはリーフHQ水族館とトロピカル・クイーンズランド博物館を見学しました。



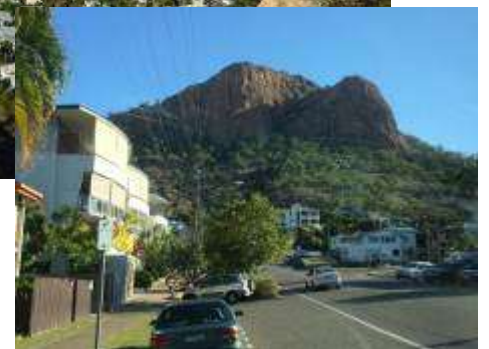
その後、タウンズビル市役所を訪問しました。ギャリー・エディハウゼン議員に出迎えられ、歓迎を受けました。歓迎式では団員を代表して灘裕貴くんが挨拶をしました。堂々としていて素晴らしい挨拶でした。議員さんから、一人一人に記念品が手渡されました。



その後、このまちのシンボリックな存在でもあるキャッスルヒルに登りました。キャッスルヒルからは青い空と海、緑が広がる街並みを見渡すことができました。その美しい景色に感動しました。



キャッスルヒル頂上からの  
タウンズビル市の風景





市内視察を終え、ライアン・カトリック・カレッジでホストファミリーとの対面。一人ずつホストファミリーが紹介され、温かい笑顔で迎えていただきました。今日からホームステイが始まります。



学校でのホストファミリー対面式

8月21日(木)

4日目。ホストスチューデントと一緒にライアン・カトリック・カレッジに登校しました。ライアンの生徒が広い校内を案内してくれました。日本と違って、同じ教室ですべて授業を受けるのではなく、授業ごとに生徒が教室を移動します。生徒は動きやすそうな制服を着ています。日差しが強いので帽子が必須です。

モーニングティーも体験しました。ランチとは別に、授業の間10時頃にモーニングティーの時間があり、お菓子やフルーツを食べました。皆、ホストファミリーが準備してくれた愛情たっぷりの大きいランチボックスを持ってきていました。



スーザン・ロバーツさんによる英語レッスン。日本とオーストラリアの違いや、オーストラリア固有の動物のこと、グレート・バリア・リーフの保護のために海面汚染を防がなければいけないという話も聞きました。授業ではかなり高度な英語も出てきましたが、辞書を片手に一生懸命に英語で答えていました。



日本語クラスの生徒との交流授業も受けました。お互いの自己紹介をしてから授業が始まります。英語で自分の名前や趣味などを伝えました。

オーストラリアのスラングをクイズで学びました。「バービー＝BBQ」などのスラングを教えてくださいました。

日本の文化である歌舞伎のお面を作成しました。ライオンの生徒も周南の生徒も真剣な表情で作っていました。日本語クラスの教室には着物や日本人形などが飾ってありました。完成後、全員で集合写真を撮りました。皆、積極的に英語で話しかけたり、身振り手振りを使ったりしてライオンの生徒との交流を深めていました。



8月22日(金)

5日目。少しずつタウンズビルの生活に慣れてきたのか、どんどん団員たちの表情が明るくなってきました。今日はまず、ピラボン鳥獣保護園へ。レンジャーによる説明を聞きながら、動物を間近で見たり、えさをあげたり、直接触ったりしました。前日にスーザンさんに教えてもらった固有の動物たち（コアラやエミューなど）も実際に見ることが出来ました。コアラは、ぬいぐるみのように可愛らしかったです。





### お別れ会でのダンス披露

その後、学校に戻り、ランチタイムにフェアウェルパーティがありました。まず渡邊友希乃さんが司会をして、団員全員でAKB48の「恋するフォーチュンクッキー」を踊りました。終わった後、田代風花さんがお礼の挨拶をしました。ライオンの生徒からは感謝状をもらいました。

### クリケットと交流授業の様子



午後からは、ライオンの生徒と授業です。芝生の運動場でクリケットというスポーツをしました。みんな初体験のスポーツでしたが、思いきり身体を動かしていました。次の授業ではボードゲームをしました。色々な種類のゲームがあり、ライオンの生徒にルールを教えしてもらいながらゲームを楽しみました。

今日が学校の最終日なので団員たちは名残惜しそうでした。多くの生徒と交流することができて、有意義な学校プログラムでした。

8月23日(土)

8月24日(日)

6日目。7日目。

それぞれのホストファミリーと休日を過ごしました。私は、MYERというショッピングセンターや市場に連れて行ってもらいました。そこで何人かの団員に出会いました。庭でバービー(BBQ)もしました。

他の団員たちも、ビーチやフットボール場などに行ったりして、ホストファミリーと楽しい時間を過ごしたようです。



8月25日(月)

8日目。

とうとうお別れの朝。ハグをしたり写真を撮ったりして、お世話になったホストファミリーとの別れを惜しましました。私たちを温かく迎え入れてくれたホストファミリーに、感謝で胸がいっぱいになりました。バスが出発してもずっと手を振って見送ってくれました。私たちも「See you!」と言って手を振りました。忘れられない感動的な光景でした。

空港に向かうバスの中では、これまでで一番、団員同士の話が盛り上がっていました。みんな、タウンズビルでの思い出を口々に話していました。共に充実した時間を過ごしてきた仲間として、団員たちの絆が深まっていました。ブリスベンからシンガポール経由で、深夜便に乗って日本へ帰国します。



お別れの朝



全員で記念写真

8月26日(火)

9日目。

無事に日本に帰国しました。ひさしぶりの日本にホッとしました。徳山駅には、家族や市役所の方が出迎えにきてくれていました。家に帰ってから、家族や友達にたくさんのお土産話をして、成長した自分を見てもらえたことでしょう。

この9日間は、私たちにとって大切な宝物です。



徳山駅到着の様子



皆さん、本当にお疲れ様でした！



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立富田中学校 1年

### 安達 梨乃

Rino Adachi



私は周南市友好親善訪問団に参加して、いろいろなことが分かったり、できるようになったと思います。

まず、人間についてです。私はコミュニケーションをとるのが苦手だったけど、このホームステイで、それができるようになりました。人の意見にのまねず、自分の意見を言ったり、相手の気持ちを考えたりして言葉を発したり、行動したりできるようになったし、人の話をよく聞くようになりました。

二つ目は、現地の人々の文化や生活についてです。まず、オーストラリアでは、日本で聞かないモーニングティーがありました。それからフットボールのチームなどが集まって試合をし、その後には、必ず表彰式があり、お祭りの時みたいにはしゃぎ、楽しく遊びます。私もそれに行きましたが、すごく人が多いけど、とても楽しかったです。

バスデーパーティーをするので、二日連続でそのパーティーに行ったりで大変だったけど、日本と全然違うところがありました。

三つ目は、景色や土地についてです。オーストラリアは土地がすごく広いので、一つの家庭に必ず家があるし、緑が植えてありました。道路を走ってても、緑がよく見えました。土地が広いと、道路も広くなったりしていました。そして、車の量が少ないので、よけいに大きく見えました。

オーストラリアは、土地も広く植物も多いことが分かりました。

四つ目は、交通などについてです。

オーストラリアでは、シートベルトの着用が絶対で、つけていない本人が罰金されるらしいです。それから運転席は右側で、一般の車ばかりで、軽の車を見ませんでした。

それから信号もちょっと大きくて、右へ曲がれますとか、赤、青、黄の色が日本と同じ色でした。でも、横じゃなく、縦においてあるのに気がつきました。それに道路もすごく広かったです。

五つ目は、学校生活についてです。まず、日本より一時間分の授業の時間が少なく、下校時間が早いです。それから、日本と同じで昼休みがありました。でも、モーニングティーといって、朝にお菓子などを買って食べたりしました。

昼休みは、みんなグラウンドに出て、フットボールをしたり、おしゃべりしたりしていました。グラウンドが芝生なのがとてもびっくりしました。

最後に、日本との違いで、これだけの間に違いや、同じところなどが見つけられるので、国が違っただけでもたくさん見つけられるんだなと思います。それから、見たことのない景色が見れたのに興奮してしまいました。

コミュニケーションの大切さが、この訪問団に参加して、よく分かったし、それがどれだけ役に立ったか分かりました。



1. お別れ会の時ホストファミリーの子と撮った写真  
4. キャッスルヒルに登った時の上から見た景色

2. フットボールの表彰式  
5. ランチタイムの時に撮った写真

3. ライ アン・カトリック・カレッジのグラウンド  
6. ランチタイムの時のおしゃべりしているところ



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立鼓南中学校 3年

### 太田 光星

Kosei Ota

オーストラリアは日本とは気候が真反対だと社会科学の時間に習いました。赤道を越えて、一度行ってみたいと思っていました。そして今回、実際にそこへ行ける事業を知り、そして自分の英語力がどれほどのものなのかを試したいとも思い、この交流事業に参加しました。

確かに、真夏の日本を発ってオーストラリアへ着くと真冬でした。「少し寒いくらいなのかな」と思って実際にシドニー観光してみると、想像を絶する寒さで、防寒着だけでなく、ホッカイロなどの防寒用具も持っていた方がいいなと思いました。シドニー観光する時は雨でしたが、少しすると天気が変わり晴れてきました。僕は実際にオーストラリアに行ってみて、こんなにも気候が変わりやすいのだということを知りました。

その後タウンズビル市へ移動し、市内やキャッスルヒルなどを観光してライアン・カトリック・カレッジという学校でホストファミリーと会いました。日本で聞いていた通り、ホストファミリーの方は多くの方が常日頃からテンションが高く、毎日楽しい日々を送ることができました。食事もとてもおいしく感じました。オージビーフを食べた感想としては、美味しかったけども日本のものより少し油っぽく感じました。僕は「日本食が食べたい」とその時思いました。海外旅行をして気付いたことは何か日本食を持つていけばよかったなと思いました。

また、僕たちは、タウンズビル市でビラボン鳥獣保護園にも行き、オーストラリアの動物であるカンガルーや僕が自分の目で一度は見てみたいと思っていたコアラなどと触れ合い、写真も撮ることができました。

タウンズビルの近くにはグレート・バリア・リーフもあり、その地特有の日本では見られない生き物がたくさんいました。ユーカリの葉はとても匂いが強く、こんなものをコアラはよく食べられるなあと思いました。コアラは一日中ほとんど寝ているので、そんなにエネルギーは必要なのかなとも思いました。そこでの自然に触れ、僕は「日本とはやっぱり違うな」ということを実感しました。

土日はさみ、月曜の朝は少し辛い思いをしました。それはその日、ホストファミリーの家を出なければならなかったからです。たくさん思い出を作り、楽しかった日々ももう終わりかと思うと「まだここに居たい」と思いました。しかし、ホストマザーが「ありがとう。またオーストラリアにおいて」と言ってくれたので笑顔でお別れをすることができました。僕は、またこの市を訪れたいと思いました。そして、海外に関する事業にまた参加してみたいという気持ちが湧いてきました。来年には世界スカウトジャンボリーがあります。その企画にも参加してみようと思っています。

今回この友好親善訪問団で貴重な体験ができたのは、事業を推進する市の方々、お世話してくださった方、タウンズビルのホストファミリーや現地の方々がいてくれたおかげです。この経験を活かし、国際交流や海外の方々の役に立てるようになりたいと思います。



1. Mrs.マッコリーズポイントという場所で、幸せになると言われていましたが、雨でぬれておりズボンがぬれましたが、願いが叶うといいなと思います。
2. タウンズビル市役所で撮った写真で、発表者の英語はとてもよく考えられており、良かったと思いました。
3. タウンズビル市のキャッスルヒルの頂上で撮った写真です。ここでは結構風が強く、少し寒かったです。ここはマウンテンになるためには約5メートル足りないらしいです。
4. Mrs.マッコリーズポイントから撮ったオペラハウスの写真です。社会科の資料で見たものよりも実際に見るほうがとても大きく、きれいで、色は白ではなく少し黄色でした。
5. ライオン・カトリック・カレッジという学校で日本語の授業をその生徒さんと一緒に受けた写真です。ここでは、日本の歌舞伎のお面を作りました。みんな怖い感じのお面を書いてすごいいました。



平成 26 年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



学校の前で



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 2年

### 杉村 美遥

Miharu Sugimura

私は、今回が初めての海外で、出発日までとてもドキドキする日々でした。

でも、オーストラリアに着き、ホストファミリーと会った時は、ホッとしました。

私のホームステイ先の家は、日本ではあまり見られない様なとても大きく広い家で、驚きました。

オーストラリアの生活習慣の違いは、土足で家の中に入っても良かったり、水不足の国なので、水を大切に使用している様でした。

食事はとても美味しく、お肉が主食でポテトやパンがワンプレートでのせられており、ポテトではなく、チップスと言っていました。

ホストファミリーの方達はとても優しく私に接して下さい、私もすぐに打ち解けて会話を楽しむ事ができました。

ファザーが、いつも料理を用意されていたので、私も一緒に手伝い、また、ファザーの希望で、日本料理のカツ丼も一緒に作りました。ファザーは私の作るカツ丼をノートに書いていました。とても美味しいと言ってくれました。

家の外には、いつでもバーベキューが出来るような設備もあり、日本の私の家にもあるといいのにと、憧れました。

また、兄弟、姉妹の四人とも、とても楽しく会話ができ、今お互いの国で流行っている事や、習い事や、学校の事などたくさん話をしました。

そして、ライアン・カトリック・カレッジでは、現地の生徒と一緒に授業を受け、日本には教科書があるが、オーストラリアでは、教科書は使わない授業をしていた事を不思議に思いました。

先生の指導に従って勉強が進む感じでした。他には日本語の勉強があり、正しい日本語という勉強と一緒に、自己紹介を、英語と日本語でしました。中でも一番楽しかったのは、お面作りで、いろんな顔が出来上がっていました。

このオーストラリア訪問団に参加し、オーストラリアは自然保護の南国らしい緑に囲まれた国だと言ふ事や、みんなとてもフレンドリーで、沢山会話が出来たこと。

そして、日本以外の国の事を体験し実感出来た事、知ることが出来て本当に良かったと思いました。

私をもっと、色々な事にトライし、積極的に学んで行きたいと思いました。

最後、ホストファミリーと別れる時はとても淋しかったです。でも、私の為に沢山の時間を作ってくれたホストファミリーに、とても感謝しています。

機会がありましたら、また姉と一緒に訪れたいと思います。

帰国後すぐに、ホストファミリーに電話をかけたところ、マザーが出られ、とても懐かしい気持ちになりました。

これからも、ずっと私の大切な二つの家族に感謝します。



広大



おいしいミートパイ



ホストファミリーとショッピング



ピラボン ヘビと共に

平成 26 年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



ピラボン鳥獣保護園で、ウォンバットと

2014/08/21



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立太華中学校 2年

### 高橋 倅哉

Yukiya Takahashi

僕は、オーストラリア・タウンズビル市に訪問してオーストラリアがとても好きになりました。そして、僕が感じたことはたくさんあります。

まず一つ目は現地の人がとてもおおらかな性格で優しい人が多かったことです。訪問前、僕は現地の人に対して「恐そうだなあ。」というイメージを持っていました。しかし、今回の訪問を通して、現地の人の人柄がそうではないということがよく分かりました。現地の人たちは初めてだった僕たちに対して、不慣れな日本語を使いながらも優しく語りかけてくれました。やはり、外国の人のことをよく知るためには、その国の人と直に接することが大切なんだなあと強く感じました。

二つ目は、多くの観光名所をまわったことです。三日目に行ったピラボン鳥獣保護園では、実に多くの野生動物を見ることができました。コアラ、ディンゴ、カンガルーなどオーストラリア特有の動物をよく見かけました。コアラには直接触ることができ、テレビなどの画面を通してでは分からない温もりのある体に癒されました。五日目に訪れた砂浜は、とても綺麗で白い砂に青い空がバックとなり、とても壮大でした。日頃、自分の家から見る海の景色とは、一味も二味も違った強い印象を受けました。最終日に行ったスチュアートでは、タウンズビル市を一望できる夜景を見ることができて、とても感動しました。



キャッスルヒルの頂上で、団員全員での記念写真

2014/08/19

三つ目は、食文化のことです。食事は肉料理が主で、オーストラリアでは、肉を食べる文化があるのだと分かりました。BBQの時では、とても優しく接してくれました。

四つ目は、自分の英会話力がまだまだ未熟だったことです。学校で習っている英語の授業だけでは通用しないことが分かり、もっと英会話力を磨いていきたいです。

これらの体験を通して、もっとオーストラリアのことを少しでも世間の人に伝えていけたらと思っています。また、この周南市友好親善訪問団をきっかけに様々な国に行つて、その国の文化を勉強できたらと思っています。



リーフHQ水族館



ピラボンで見た大きなワニ



シドニーで見たオペラハウス



ピラボン鳥獣保護園にて、コアラとの記念写真

2014/08/21



1



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 1年

### 田代 風花

Fuka Tashiro

私がこの周南市友好親善訪問団に参加して、まず感じたのは「人の温かさ」です。

今回のオーストラリアでの滞在中、ライアン・カトリック・カレッジの先生や生徒の皆さん、ホストファミリーなど本当にたくさんの方々との接する機会がありました。オーストラリアに行く前はすごく緊張していましたが、実際に行ってみると皆にこやかに声をかけてくれ、私の話も熱心に聞いてくれました。私は、ほっとしたのと同時に初めて来たとは思えないような気持ちになり、とても楽しく充実した九日間を過ごす事が出来ました。人を思いやる気持ちは国や言語が違っても通じるものなのだと思います。

また日本に帰った時には、家族や友達が口々に「お帰り!」「どうだった?」「心配したよ。」と優しく笑顔で迎えてくれました。オーストラリアでも、九日間とはいえ家族と遠く離れて一人での心細かった時もありましたが、電話口からのいつもと変わらない家族の声が私をすごく安心させてくれました。そのような時「人の心って温かいなあ」と思わずにはいられません。私は改めて普段身近にいる人たちの大切さ、有難さを実感する事が出来ました。

次に感じたことは「周りへの感謝の気持ち」です。

今回の訪問団参加にあたり準備の段階から学校の先生方、市役所の方々、訪問団のメンバーにも本当にお世話になりました。

外国なんて社会の勉強やテレビで見ると、くらいしか接点が無かった私が、こんなに身近に外国を感じられるようになったのは、この沢山の方々が協力して下さったからこそだと思っています。この沢山の方々がいなかったら、きっと私は今でも「へえ、外国か・・・憧れるよねえ。」くらいにしか考えていなかったと思います。このように見方がガラッと変わるほどの経験を私にさせてくれた、それにはどれほどたくさんの方々が関わりサポートして下さったか、そんなことを考えると、心の中に「感謝」という言葉が浮かび上がって来ました。

この時やっとな、母がよく言う「感謝しなさいよ。」の言葉の意味を実感しました。

今までは、母たちから言われてする事が多かった「感謝」が、今では自然と感謝の気持ちが生まれ、それを言葉にする事が出来るようになった気がしています。

今回の訪問団の一員としての九日間の体験は、私のこれからの人生において決して忘れる事の出来ない、とても有意義なものとなりました。

皆さん、本当にありがとうございました。



1. ホストファミリーのプリトニーさん、その友人のダニアさん、そして私がキャッスルヒルで撮ってもらった写真です。2人とも面白い、気さくな人でした。
2. ライアン・カトリック・カレッジの日本語クラスで知り合った生徒さんと撮ったものです。習った日本語で、一生懸命話しかけてくれて嬉しかったです。
3. キャッスルヒルからの夜景です。昼とはまた違った雰囲気絶景がみられました。この景色が360度広がっている様子は幻想的です。
4. ワニがちょうどぶら下げられた肉を食べたシーンです。ワニは大きくて、食べ方も豪快だなと思いました。
5. ホストファミリーとショッピングへ行ったとき、ハンバーガーの包み紙で折り鶴を作った写真です。ホストファミリーは“Cute.”と褒めてくれました。

平成26年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



ホストファミリーとレストランで食事をした時の写真



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立岐陽中学校 1年

### 灘 裕貴

Yuki Nada

僕が今回この周南市友好親善訪問団の一人の団員として参加したのは「夢」があったからです。その夢とは、航空管制官の職務につくことです。空港の敷地内にある管制塔の中から、それぞれの旅客機の機長と通信をするこの仕事については英語が完全必須になります。だから、本場の英語を体験したいと思い、今回参加をしました。

実際に、現地に行ってみて驚くことが多くあり、初めて知ったこともたくさんありました。オーストラリアと日本とは文化や歴史がたくさん異なるところがありました。

衣文化や食文化など違つところがあるということがわかりました。

オーストラリアでの生活は、僕にたくさんのお話を教えてくれました。一週間という時間のなかで、ホストファミリーとのコミュニケーションを通して、お互いに関係を深めることができたと思います。現地での生活やその習慣に慣れ始めた頃に、別れの時間は突然のようによつてきたような気がしました。だから、やり残したことはなく、行ったことになんの後悔もしていないはずなのに、「あれをやっておけば良かった」とか、「本当に、身の詰まった時間やその一日一日の日々を有意義に過ごすことができたのかな」といった思いに見舞われました。だから、その僅かに曇つた思いを晴天のように晴らし、本当に後悔をしないためにも、いつか僕自身が大人になった時にもう一度オーストラリアに行くことができたいなと思えました。そして、その時には今よりもっと英語が話せるように

1. これは、見ての通りカンガルーです。毛はとても柔らかく、撫でると気持ち良かったです。このような、固有の生物をこれからも守ってほしいと思った。
2. この写真に写っているのは、紛れもなくウミガメである。彼は、海にいるときに足が浮いてしまい上手く泳げないという病気にかかってしまったのである。その為、今治療をしているらしい。もう少しで回復するらしく、その後、海に帰してやるという。
3. オペラハウスとハーバーブリッジの写真である。天候はまずまずであったが、建造物は両方ともその名に相応しいものであった。これからも、両建造物は、シドニーのシンボルであり続けるだろう。
4. これは、僕が市役所内でスピーチをした時の写真である。ホールの中は想像していたよりも広くマイクの声がよく響くので、とても緊張した。
5. この建造物は、キリスト教の教会でとても神聖なものだった。中は撮影禁止だったので、写真は無いのだが、その風景やステンドグラスの景色は、しっかりと目に焼き付けた。



なっていて、今回お世話になったホストファミリーの人達にも再会して、恩返しでもできればいいなと今でもこの思いは全く変わる事なくしっかりと感じていきます。

僕は一つだけ、特別な思いをよせているものがあります。それは、ホストファミリーの一人で今十歳の息子のマシュー君のことです。初めて出会ったその時から少し違和感を覚えてはいたのですが、もしそれを何のためらいもなく聞いてしまつと、大変な失礼になると思い日曜日の最終日になつても、別れるときも、むしろ帰りの飛行機に乗るまでは、一言も口には出しませんでした。飛行機の機内で初めて知った時には、少しではありましたが驚きをかくせませんでした。

だからこそ、今度は彼が難病に体を侵されているという事実をお互いに理解しながら、そのうえで友情の芽を生やしたいと思いました。

最後に、僕は本当に今回オーストラリアに行つて良かったと思っています。自分自身の夢をかなえるための一歩にしたいと思ひ参加したけれど、それ以上に収穫は大きかったと思います。今回の多くの経験が今後の生活に活かしたいと思いました。





マーケットに行って、チョコレートジュースを飲みました。



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立周陽中学校 1年

### 西岡 望愛

Noa Nishioka

私は、タウンズビル市を訪問してたくさんのお出ができました。

まず、タウンズビル市に着いて最初に行った場所は、リーフHQ水族館でした。そこで昼食を食べました。その後、視察をして、トロピカル・クインズランド博物館の視察をしました。その後は市役所で歓迎会が行われました。歓迎会の後、市内視察でキャッスルヒルなどに行き、ホストファミリーとの対面でした。一人ずつ名前を呼ばれ、ホストファミリーの所に行ったら、解散でした。ホストファミリーの方は、とても優しく私の荷物を運んでくれました。車に乗ったら、英語で話しかけられました。早く、聞き取れなくてあせっていたら、ゆっくり言ってくれました。ホストファミリーの家に着いたら、部屋に案内されました。そこに荷物などを置いていたら、チョコレートのお菓子をたくさんくれました。日本からのプレゼントを渡していたら、ホストファミリーが帰ってきて、夜ご飯を食べに行きました。私は、何を注文したのか分からず座っていたら、でかいお肉ができました。最初は、とても驚きました。ホストファミリーの方は普通に食べていたので、すごいなと思いました。

二日目は、ホストスチューデントと学校登校でした。ホームルームがあつて、その後校内ツアー、モーニングティーなどでした。その後は、英語の勉強などでした。学校が終わって家に帰って、シヤロットさんとテスさんとバスケットをして遊びました。

ホストファミリーと海に行った写真です。砂浜がきれいでした。



三日目は、ビラボン鳥獣保護園を訪問しまして、コアラやカンガル、ワニなどを見ました。カンガルにエサをあげることができたので嬉しかったです。そして、学校に戻ってお別れ昼食会でした。  
ホストファミリープログラムは、二日あり一日目は、テスさんのバスケの試合を見に行きました。日本に比べてバスケットボールが高かったです。試合が終わって、家に帰って、皆で手作りピザを作りました。生地の上には、チキン、チーズ、パイナップルをのせました。とてもおいしかったです。  
二日目の朝は、マーケットに行きました。たくさんのお店が並んでいました。途中で、チョコレートジュースを買ってくれました。チョコレートがすごく甘かったです。昼からは、海にホストファミリーと行きました。とてもきれいな海でした。

夜ご飯を食べに行った。



ビラボン鳥獣保護園で  
クロコダイルのエサやり

たくさんのおい出がタウンズビル市を訪問してできました。ホストファミリーの方とは、フェイスブックなどで連絡をとっているのので、ぜひ日本にも来てほしいです。また、タウンズビル市を訪問したいです。

民族に出会って、一緒に演奏。



夜、散歩に行きアイスを食べた。

平成 26 年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



私のホストファミリー8人と犬3匹・猫1匹・にわとり8羽。私は左から2番目です。



海から海水を引き入れて作ったプールで泳ぎました。



シドニーオペラハウスは壮大でした。

## 周南市友好親善訪問団に参加して



周南市立菊川中学校 3年

# 林 じゅり

Juri Hayashi

「初めての海外に臆することなく、オーストラリアを楽しみた  
い。」壮行会では意欲満々でしたが、最初は不安でした。  
そんな私の不安を吹き飛ばしてくれたのは、とても明るく賑  
やかな私の八人のホストファミリーと犬三匹・猫一匹・にわと  
り八羽でした。ホストマザーはどんな時でもオーバリアクシ  
ョンで、子供達は積極的にお手伝いをしていたことが、とても  
印象的でした。日常会話は何とか聞き取れましたが、「day  
を、day」と発音するところや、兄弟げんかが始まる何を言  
っているのか分からない場面も多くありました。日本から持っ  
て行った折り紙で紙ヒコキを作ったり、音の出る風船やトラ  
ンプで遊び、すぐに打ち解けることができました。  
ライアン・カトリック・カレッジでは一緒に歌舞伎のお面を  
作ったり、広い校庭ではオーストラリアでポピュラーなスポー  
ツ、「クリケット」をやりました。（日本の野球のような遊びで  
す。）生徒達はとてもフレンドリーで、日本語で「こんにちは」  
と、積極的に話しかけてくれました。私も思ったことを英語で  
伝え、相手と分かり合えたときは、心の中でガッツポーズをす  
るぐらいうれしかったです。

最初に訪れたシドニーの町全体を見渡せるミセスマッコリーズポイントや壮大なオペラハウスなど、都会的なイメージと比べて、タウンズビル市は自然豊かでのんびり過ごすことができる魅力的なところでした。

ホストファミリープログラムの日には、海からの海水を引き入れて作った広いプールで泳いだり、朝早くから開かれているマーケットや近所のスーパーにも行きました。そこではお土産を買ったり、絵ハガキを買い日本の友人に送りました。まるで私も家族の一員であるかのように接してくださったホストファミリーのおかげで、楽しく過ごすことができました。本当に感謝しています。

いよいよお別れの時、一人一人とハグをしていたら、涙がこみ上げてきました。

この訪問団に参加して私も少しは成長できた気がします。

もっとコミュニケーションがとれるように英会話を勉強し、必ずまたこの地を訪れたいと思います。



ホストファミリーと  
マーケットに買い物へ



タウンズビル市で市長表敬訪問 市長代理の方からご挨拶



ライアン・カトリック・カレッジの広い校庭でクリケットをしました。



ライアン・カトリック・カレッジの生徒と一緒に歌舞伎のお面を作りました。



ピラボン鳥獣保護園訪問でカンガルーに餌やり



ピラボン鳥獣保護園訪問 ウォンパットやワニ・ヘビとの触れ合い



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立周陽中学校 3年

### 森重 蒼

Aoi Morishige

私は今回の周南市友好親善訪問団に参加して、たくさんのお話を学びました。

シドニーへ観光に行った時に「写真を撮っていただけでもよろしいですか。」というたった一行の簡単な言葉がなかなか英語で話せず大変でした。でも、通じた時はとても嬉しかったです。

私が一番印象に残っているのはホームステイです。ものすごく速いスピードで英語を話していてびっくりしました。でも三日目くらいからは、だんだん聞き取れるようになってきて、積極的に話すことができました。ホストファミリーがみんな私にとっても親切にしてくれて、とても楽しく生活できました。私が困った時は、すぐに「どうしたの」と心配してくれて、助けてくれました。私の話を楽しそうに聞いてくれて、嬉しかったです。それに、自分の話す英語が通じていると思うと、とても嬉しくて自分の英語力に自信を持つことができました。週末にはプールやビーチなどたくさんのお所に連れて行ってくれました。オーストラリアの事もたくさん教えてくれました。ホストファミリー達が日本の事をたくさん聞いてくれたり、褒めてくれて日本の良さを改めて感じました。

ライアン・カトリック・カレッジに通って、オーストラリアの文化などについてたくさん学ぶことが出来ました。学校の中を歩いていると、たくさん生徒たちが私に話かけてきて嬉しかったです。休憩時間には、ボールで遊んだり鬼ごっこなどをして、とても楽しかったです。



2

ピラボン鳥獣保護園訪問では、大好きなコアラを初めて見る事ができ、触ることも出来て、とても嬉しかったです。すぐ近くでコアラと触れ合う事が出来て、幸せでした。ピラボンの中にカンガルーやワラビーが普通に歩いていて、びっくりしました。クロコダイルはとても大きくて少し怖かったです。でも、子供のクロコダイルは小さくて可愛かったです。うろこが硬かったです。日本では、見る事の出来ない動物達にたくさん会えて、嬉しかったです。

タウンズビル市への訪問で、英語の楽しさや国際交流の素晴らしさを学びました。世界にはたくさんさんの言語があり、いろいろな種類の人がいるけど、みんな同じ人間で助け合うことができるんだと確信しました。これから私は、今回の経験を活かして世界のたくさんさんの人と交流していろんな文化などを学んでいきたいです。



- 3
1. 朝、学校に行く前にモーニングティーをするために寄ったコーヒーショップで撮った写真です。
  2. ライアン・カトリック・カレッジでのお別れ会でホスト学生と一緒に撮った写真です。
  3. ホストファミリーと一緒に泳いだプールで撮った写真です。



- 4
4. 週末に連れて行ってもらった市場で出会って、仲良くなった台湾人の方と香港人の方と一緒に撮った写真です。
  5. 日曜日に連れて行ってもらった2つめのプールの写真です。





平成 26 年度  
**Townsville**  
 友好親善  
 訪問団



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市立太華中学校 2年

### 渡辺 優志

Yushi Watanabe

僕がタウンズビル市に行って分かった事、感じた事。一つは、人の優しさでした。タウンズビル市の人は、積極的にあいさつをしてくれ、声をかけてくれます。僕もそうですが、日本の人は知らない人にあいさつをする事や声をかける事は勇気がいる事で、僕もその一人だと思えます。学校の帰り、近所の顔見知りの人にはあいさつをする事ができますが、知らない人とすれ違つたとめらいます。しかし、オーストラリアの人は誰にでも気さくに声をかけてくれるので、自分も声がかげやすかったです。分からない事も丁寧に教えてくれました。

もう一つは、家の広さで、オーストラリアは日本と違って家の大きさ、部屋の広さ、庭の広さも違い大きく広がったです。そして、平屋が多く、家の中では一番広いのは日本と同じリビングでした。ソファやテレビがあり、日本とオーストラリアもリビングは寛ぎの場は同じなんだなと思いました。

もう一つは、景色です。僕はオーストラリアのタウンズビル市に行って、キャッスルヒルを二回登りました。一回目は訪問団員と登り、二回目はホストファミリーやホストマザーのマリテスさんの日本の友達二人と一緒に登りました。キャッスルヒルからの景色は、とても良く家も良く見え、海もとてもきれいで感動しました。

ホストファミリーと過ごした時間があっという間でした。ファミリーの友達家族を交えての二日間のパーベキュー。ホストファザーのブルースさんはラグビーのスタジアムで働いています。そのスタジアムに連れ

て行ってもらい、グラウンドで息子のアシュトン君とフーメランをして、遊びました。その他にも、釣りをしたり、ブルースさんのバイクの後ろに乗せてもらいました。日本と交通事情が違うので、凄いスピードでバイクを走らせてもらい、日本では味わえないスピード感を味わうことが出来ました。ライアン・カトリック・カレッジでは、小学生から高校生までの生徒が一つの学校で勉強しています。日本語クラスで歌舞伎のお面を作ったり、オーストラリアについて選択クイズをしたりしました。

今回のオーストラリア・タウンズビル市でのホームステイでは、貴重な体験をする事ができ、感動と興奮の毎日でした。行く前は、英語で話す事のプレッシャーや不安もありました。一週間近くタウンズビル市にいて、ライアン・カトリック・カレッジでの交流やホストファミリーと過ごし、英語力が少し上がってきたと思います。英語の授業だけでは味わえない英語を生で感じる事ができました。

このホームステイを体験し、他の国の人達と繋がり、色々な興味も湧いてきました。今後また、他国との交流に機会があれば、進んで参加したいと思います。



- 1. フットボール場でアシュトン君と撮った写真です。
- 2. キャッスルヒルからのタウンズビル市の風景を撮った写真です。
- 3. ホストファミリーとバーベキューをした時の写真です。
- 4. ブルースさんのバイクに乗せてもらった時の写真です。
- 5. ビーチでブルースさんとアシュトン君と撮った写真です。
- 6. キャッスルヒルに登ってブルースさんとアシュトン君と撮った写真です。





出発前のホストファミリーとの写真



## 周南市友好親善訪問団に参加して

桜ヶ丘高等学校晃英館コース 1年

# 石生 麻里亜

Maria Ishio



帰りの飛行機で撮った写真です。とっても楽しい8泊9日の研修でした。次回は自分一人で来たいと思いました。

私が友好親善訪問団員になって、良かったなと思ったことを、これからお話しします。

私は、この事業の参加にあたって、次の二つの事を特に頑張ってきたいと壮行会の時に宣言しました。一つ目は、自分の英語力の限界を知り、自分に欠けている部分を補いながら、現地の方との交流を深めること。二つ目は、周南市という市について、よく知ってもらい、自分が周南市とタウンズビル市の友好の架け橋に少しでも貢献出来たらと思ったから。この二つを目標に現地に行きました。この目標を達成する間もなく、言語の違い、文化の違いに、とても頭を悩まされました。

しかし、ホストファミリーの方がいろいろな場面で助けてくださったおかげで、楽しく現地で過ごすことができました。また、現地の学校訪問では、この写真をご覧いただければお分かりになれるように、お互いの趣味で盛り上がりお友達もできました。振り返ってみれば言語の壁なんて、薄っぺらいものだと感じました。

さて、ここからが本題なのですが、私が壮行会で宣言した二つのこと、一つは前文でも述べている通り、達成することができたのですが、二つ目の周南市についての知識を深めていただくという事は、自分としては納得がいくまで紹介することが出来なかったのではないかと思います。ホストマザーにパンフレット(周



南市を渡した時のことなのですが、これは東京のか？と聞かれました。私はこれは山口県という場所を説明したものだと言つと、初めて聞いた地名だとおっしゃっていて、まだまだ山口県も知名度が低いんだなと実感させられました。私は、この際山口県というマイナーな県ではありませんが、覚えていてくれたらなと思いましたが、最後になりましたが、団長さんをはじめとした素晴らしい仲間と一緒にタウンスビルを訪問出来たことを嬉しく思います。ありがとうございました。



1. 現地の学校で仲良くなった方々の写真です。日本語の授業でビンゴをしたり、学校案内に連れて行ってもらったり、とっても楽しかったです。
2. これは、ピラボン鳥獣保護園でカンガルーに餌やりをした時の写真です。とっても可愛いカンガルーもいれば餌目当てに突進してくるカンガルーもいました。
3. ホッケーの試合風景の写真です。ホストファミリーがホッケーを習っていたので、見に行きました。結果はホストファミリーの所属チームが勝ちました。
4. 現地の学校に行った時に仲良くなった方々。ピンポンというゲームをしたり、鬼ごっこをしたり、ランチを一緒に食べて、とっても楽しい時間を過ごしました。



平成26年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団



お世話になったホストファミリーと



## 周南市友好親善訪問団に参加して

徳山工業高等専門学校 1年

### 河村 至紀

Yoshiki Kawamura

この訪問で一番強く感じたことは、コミュニケーションをとるには、相手を積極的に理解しようとするお互いの気持ちや姿勢が何より大切である、ということでした。

出発前に送ったファミリー宛てメールに、「あなたを全力でサポートします。あなたに会えるのを楽しみにしています。」と返信して下さいました。このメールで僕は力をもらい、不安も一掃し、安心して日本を出発することが出来ました。

ホストファミリー宅に着いてからも、常に僕がどうしたいのか、ということ聞いて下さり、会話のスピードに戸惑った時など、ゆっくり話してくれたり、紙に書いてくれたり、いつもやさしくサポートして下さいました。

ホストファミリーとは、一緒にサーフィンやスケボーなどのスポーツを楽しんだり、公園を散策しながら、保護された動物に餌をやったり、様々な体験をさせてもらいました。中でも、夕食後にお互いの国の「住環境の違い」について、ディスカッションした事は、建築などの勉強をしている僕にとって、視点の違いのおもしろさや、新たな発見・気付きもあって、良い時間となりました。

ライアンの生徒は、気さくでユニークな人達が多く、ここでも温かく迎えてくれ、一緒に活動した時は、笑いが絶えませんでした。休み時間には、なぜかライアンの生徒と徒競走することに。年下だったけど、僕よりもはるかに体格の大きな子との勝負。しかも多くの人が集まり、緊張してしまいました。



この負けられない？戦いは、何とか無事勝利に終わり、ホッとしました。この事は、とても良い思い出となりました。もっともつと交流の時間があれば、と思う程楽しい活動でした。

初めての海外で、こんなにもタウンズビル市の方々に受け入れて頂き、コミュニケーションを取ることもでき、出発前の想像をはるかに越えた、充実した日々を過ごすことが出来ました。これは、タウンズビル市の方々のおおらかさや、優しさだと感じます。いつの日か、またタウンズビル市を訪問し、ホストファミリーと再会したいと思います。ます。

僕は友好親善訪問団に参加して、姉妹都市であるタウンズビル市を沢山知ることが出来ました。それと同時に、自分の故郷である周南市を、再認識することも出来ました。この素晴らしい出会いや経験を、これからの自分に活かせるよう、今後も活動して行きたいと思えます。

最後に、今回の周南市友好親善訪問団の参加に協力して下さいましたすべての方に、そして参加に背中を押してくれた家族に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



1. 初サーフィン:タウンズビル市の海で初サーフィン、感動！
2. 飼犬のナラとテイラー:寝もばっちり！ナラとテイラー
3. シドニーにて:オーストラリアを象徴するオペラハウスをバックに団員と
4. お面作り:ライオンの生徒と歌舞伎の面作りで交流
5. 腕相撲:ホストブラザーや近所の子と力比べ

ピラボン鳥獣保護園でコアラと



## 周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 3年

### 小林 愛理

Airi Kobayashi

大学受験を目前に控えている私がなぜ受験生にとつて、とても大事な夏休みを利用してまでこの訪問団に参加したかというところ、この体験が確実に夢に繋がることを確信していたからです。私には、長い間持ち続けている夢があります。それは、空港で働くグランドスタッフになることです。グランドスタッフは英語力が問われます。だから、この訪問団に参加することで、自分の英語力を試してみようと思ったのです。

そんな私は、英会話を習っているわけでもなく、持っているのはただ学校で勉強した文法などの基本的な知識のみです。今回は私にとって初海外で、全てが感動的でびっくりすることばかりでした。長距離フライトを終えた後に到着したシドニーは震えるほど寒かったことを覚えています。日本とほぼ同じ経度に位置するのに、赤道を越えることで、こんなに違うのかと思いました。シドニーで一泊した後はいよいよタウンズビルに到着です。タウンズビル初日は水族館やキャッスルヒルなどの観光を楽しみ、街の魅力を存分に感じる事ができました。そして、待ちに待ったホストファミリーとの初対面。迎えてくれたのは優しい笑顔がすてきなホストファミリーとホストマザーの二人でした。そして、ホストファミリーの自宅であり、私のホームステイ先である家に到着しました。そして、ようやく同い年のホストシスターとも対面しました。そこから私のホームステイが始まったわけですが、初日であるこの日は聞き取ることで精一杯で、自分から話しかける余裕などほとんどなかったように思います。同じ家の中に日本人が一人で伝えられないうい、伝わらないということに対する不安が募っていき、そんな困っていた私を見かねたホストマザー



釣りに行ったとき

であるルー・サさんが紙とペンを取り出し、私に伝えたかったことを書き出してくれました。簡単な文法で書いてあるので私にも伝わりました。そんなルー・サさんのおかげで、それ以降は困ることもなく生活することができました。

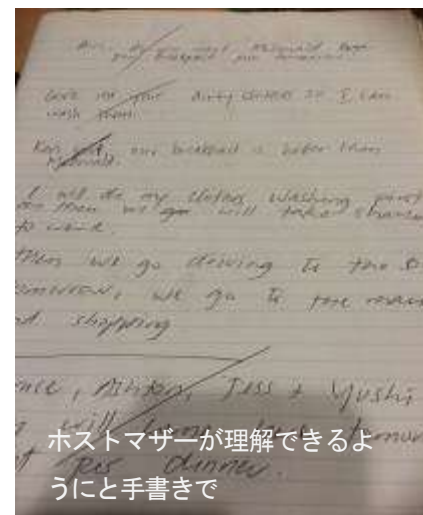
翌日、翌々日はライアン・カトリック・カレッジにて学校生活を体験しました。制服スタイルも文化も全く違う中での生活はとても面白かったです。その後は休日となり、海へ行ったり魚釣りやバーベキューをしたりと楽しい日々でした。この長いようで短い体験を終えた後で確実に言えることは、思ったことははっきり伝えたほうが良いということです。へそなのか？なのか、はっきりと自分の考えを伝えることが関係良好に繋がりました。日が経つにつれて、ホストマザーが紙とペンを持ち出す機会もグンと減っていききました。それを感じとった私は、この九日間で出発前よりも少し成長することができたように思います。楽しみながらも、毎日が私にとって勉強の日々でした。この経験を活かし、絶対に夢を叶えたいと思います。



渡辺くんのホストファミリーとバーベキュー



休日の昼食でお寿司屋さんに



ホストマザーが理解できるようにと手書きで



ライアン・カトリック・カレッジにて、皆で歌舞伎の面を作りました

IEZZINE BARRACKSにて 最終日

## 周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立徳山高等学校 1年

### 伏谷 茜

Akane Fushitani

平成26年度  
Townsville  
友好親善  
訪問団

今回の訪問で大きく三つのことを学びました。一つ目は、人の温かさです。私は人見知りで、初めてホストファミリーに会ったときも挨拶で途切れてしまい、なかなか会話が続きませんでした。そんな時、ホストシスターのブリトニーさんが何度も話しかけてくれて、嬉しいと同時に申し訳なかったです。また、週末にブリトニーの友達が泊りに来たとき、一人で見ていただけだった私をホストマザーが映画鑑賞に誘う場面もありました。Do you like quiet?と聞かれるほど物静かだった私に何度も優しく接してくださって、本当に心の温かい人達だと感じました。

二つ目に、語彙力の必要性です。私は、ホストファミリーとの会話で文法的なことは中学校までに習ったものしか使いませんでした。それだけで十分会話が成り立ったからです。しかし、例えば足が攣ったとき、私はホストファミリーに「足が攣って痛い」という状況を、すぐには説明できませんでした。このように急に何かを伝えたいとき、言葉が分からないというのは大変です。私は、高校で習う英語をきちんと身につけたいと同時に、単語をしっかり覚えていきたいと思いました。

三つ目に文化の違いです。私がまず驚いたのはスポーツです。日本で人気のスポーツといえば野球やサッカーがありますが、オーストラリアではクリケットやラグビー、ネットボールなど、日本ではあまりなじみの無いスポーツが人気でした。

また、日本では500ミリリットルのペットボトルが主流ですが、オーストラリアでは600ミリリットルのものがほとんどだったり、多くの人がサンングラスをかけていたり、パジャマでも外出したりと、細かいところで日本との違いに気づく事ができました。

反対に、四つ目に挙げるのは、世界の縮小化です。オーストラリアにも日本と同じようにサーティワンアイスクリームやセブンスイレブロンなどのチェーン店があったり、ミニやモノポリーがあったり、iPhoneを使っていたりしました。また、インターネットの発達により、帰国した後も、ラインやフェイスブックを通じてホストファミリーと連絡を取り合うこともできます。私は社会の授業で習ったことを実際に体感できて、とても面白かったです。

以上の体験から、私は、もう一度海外に行きたいと思いました。そのため、まず英検二級合格を目標に日々学習していききたいと思います。

最後に、この訪問団に参加したことは一生の思い出になりました。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。



シドニーで



キャッスルヒルからの夜景



日本語クラスにて、プリニーさんと



シンガポール空港にて



レストランで食べたステーキ

2014/08/19 18:11:24



ホストファミリーとチョコレートファウンテン





## 周南市友好親善訪問団に参加して

山口県立德山高等学校 1年

# 渡邊 友希乃

Yukino Watanabe



タウンズビルで一番有名なラグビー選手だよとお兄さん。写真は撮っておくべきだよねとまたまたお兄さん。

参加を決定し、研修を重ね、訪問する。今回の研修に出席するまで一カ月ほど時間を費やし、出発に備えました。その甲斐あってか、初めての海外にして、人生の大きな一歩を踏み出せたような感覚がありました。初海外で初体験は数えられるほど少なくはありませんでした。

私は、この訪問団に参加するにあたり、自分の将来を見つめてみようという目標をもちました。まず、一番にその目標を達成できるであろうと思ったライアン・カトリック・カレッジでは、自分から人に話しかけるといふ積極性を身に付けることができました。しかし、私よりも現地の方たちの方が何倍もの積極性を持っているように感じました。日頃から、自然とそのようになっていくというのは、私たち日本人が見習うべき点だと思います。

また、中学校から行っているディベート教育。はじめは目の前で行われているのか分からない状態でした。しかし、ディベートの中身が分かっていくにつれて膨らむオーストラリア教育のすばらしさ。人と人をつなぐグローバルな時代に欠かせないディベートは日本でも通用する優秀なものであり、他の国の人と比べ消極的な日本人にはもっと取り入れるべきだと思います。人がどれだけ苦労して自分の考えを練り、相手を自分の意見に引き寄せそして議論をいかにして自分の有利な方に持っていけるか。このように中学生にこれからの自分の将来を考えさせられるような経験もしました。



そして、特に私の心にオーストラリアと日本の本当の違い、それは人のおおらかさにあると思いました。少しの意見の食い違いが起きただけで日本なら起こる喧嘩。しかし、オーストラリアでは一度も目にしませんでした。そのオーストラリア人のおおらかさに助けられながら、私は生活できたのだと思います。タウンズビルで過ごした四日間には良い思い出があります。その中にもミサという日本で生活する上では全く関わることのなかった体験もしました。話していること全てが英語で、私にはとても理解できないような単語も出てきていました。そのような様々な経験を通して、木村市長が壮行会でおっしゃっていた通り、ひとまわりもふたまわりも成長して日本に帰国できたのではないかと思います。

そして最後に、この人生の糧となる経験をさせてくださったシドニーを案内して下さった方々、タウンズビル市で私を温かく迎えて下さったウィタッカー家の皆さん、ライアン・カトリック・カレッジの方々、そして家族、たくさんの方のおかげで私のオーストラリア研修は成功に終わりました。

この経験は、私の一生の宝物です。



1. 最後の休日に食べた朝食。初日の時点で、野菜がないことに衝撃を受けた。
2. オーストラリアの古い住宅を再現した博物館。これは今でいう、リビングにあたりと学芸員の方が言われていた。
3. 日曜の昼、家族全員で海辺のレストランへ行った。綺麗な海と美味しいご飯に惚れ惚れ。
4. オーストラリアの壮大な風景。日本の風景とは違う良さがあった。
5. タウンズビルの地元のサッカーチームの試合を見た時。タウンズビルの方の地元愛は半端ではなかった。
6. これは、ホッケーの試合を見た時。ホストファミリーの女性陣はみんなホッケーを習っていた。





ストランドビーチでピクニック。フィッシュ&チップスを食べました。  
海では海水浴やサーフィンをしている人が大勢いました。



## 周南市友好親善訪問団に参加して

周南市役所財務部課税課

仲子 恵美 Megumi Nakako

タウンズビル市は、出発前に想像していた以上に、自然も人々の心も豊かなまちでした。この美しいまちで、現地コーディネーターのスーザンさんを始め、ホストファミリーやライアン・カトリック・カレッジの皆さんに温かく迎え入れていただきました。多くの人たちのおかげで、私たち訪問団員は今後の人生を大きく動かすほどの貴重な九日間を過ごすことができました。

訪問中、団員たちの意気込みやチャレンジ精神には本当に驚かされました。家族と離れて言葉や文化の違う異国に来て、未知の世界に飛び込むことを楽しもうとしていました。ライアンの生徒と仲良くなるために積極的に話しかけたり、わからない英語を理解しようと悪戦苦闘している様子は、とても輝いていました。自分から心を開き相手を知ろうとすることが交流の第一歩なのだ、改めて気付かされました。

学校での英語授業を終えた後に、スーザンさんが団員たちに伝えてくれた言葉が印象に残っています。「英語が全然分からなかったと落ち込んだ人もいられるかもしれないけど、そのことは大問題ではありません。それよりも実際にタウンズビルに来て自分が経験したことが皆を成長させるのです。自分が経験したことや、一生懸命に発言したことは絶対に忘れない。自分が経験したことに自信を持ってください。」という内容でした。私自身も、出発前は不安と緊張しかありませんでした。しかし、九日間の訪問を終えた後は充実感とともに、貴重な経験をした自分に自信が湧いた気がします。それは訪問団員全員が感じていることだろうと思います。

私も団員と同じようにホームステイを経験させていただきました。一番の思い出は、毎日ホストファミリーのキャシーさんと一緒に犬のブロンクスを連れて近所の公園を散歩したことです。私はその自然がいっぱいの公園が大好きでした。空を見上げれば色とりどりの鳥が飛び、森には野生のカンガルーが生息し、川には亀や水鳥がたくさん泳いでいました。その公園の中に遊歩道があり、市民の方たちが散歩やランニングを楽しんでいました。こんな美しい場所が家から徒歩3分にあるとは、なんてうらやましいと思いました。

そして、タウンズビルの人たちは空、鳥、花などを見て「ビューティフル」「プリティ」とよく口にしてるのが印象的でした。彼らにとっては日常であろうと、生活の何気ないことにも美しさを感じ、大切にしているのだと感じました。また、よく挨拶をして声を掛け合っていました。自分のまちや自然を愛し、人を愛する人たちでした。

最終日に、嬉しいサプライズがありました。私は最終日の日本に帰国する日が誕生日でした。シンガポールの空港で乗継待ちをしていた時、0時になった瞬間に「いつ渡すの？今でしょ」と団員たちからメッセージカードをもらいました。全く予想していなかったので泣きそうなくらいに嬉しかったです。皆と一緒にタウンズビルへ行き、同じ気持ちになって色々な経験をすることが出来たことを、一生忘れません。これからも輝かしい人生が皆を待っているよ。それぞれの夢・目標に向かって、自信を持ってがんばって！



3



1



4



2

1. キャッスルヒルでスーザンさんと記念撮影。スーザンさんには大変お世話になりました。キャッスルヒルからの眺めはまさに絶景！
2. 私のホストファミリーのロッドさんとキャシーさんです。お二人とも英語力の疎い私に、とても親切でした。おかげでホームステイを楽しむことが出来ました。ちなみに、家はプール付きの豪邸です。
3. ビラボン鳥獣保護園にて。ウォンバットやコアラなどの動物に触れることができました。可愛かった～。癒されました。
4. ブロンクスを散歩しているところです。

# ★☆☆ Pictures ☆☆☆

タウンズビル市訪問までの事前説明会や帰国後の報告会の様子を紹介します。



事前説明会の様子 (7月～8月)



募集説明会の様子 (5月24日) 市民館



英会話レッスンの様子



グループ学習の様子

## 8月11日(月) 壮行会 市民館

壮行会には、市長、団員が在籍する学校関係者等も出席され、団員一人ひとりがタウンズビル市を訪問するにあたっての目標や決意を発表しました。



訪問に向け、決意発表をする訪問団員



壮行会後の記念写真

## 事後研修会の様子

事後研修会では、グループ学習のまとめや帰国報告会での発表リハーサルを行いました。現地で調べてきたことを、他の団員と共有し、グループとしての意見をまとめました。タウンズビル市での思い出話も盛り上がり、皆が現地で楽しんだ様子がうかがえました。



## 9月15日（月）帰国報告会 徳山保健センター

帰国後の報告会では、訪問団員一人ひとりが現地で撮影した写真を紹介しながら、滞在中、印象に残ったことや現地の方達との交流について、報告しました。また、グループごとにテーマを決めて行ったグループ学習についても発表を行いました。



木村市長からのあいさつ



団員一人ひとりによる体験報告



団長の仲子さんによる全体報告



事後研修会の様子

# Townsville



# Townsville





# Sydney





発行 周南市地域振興部観光交流課  
コンベンション・国際交流推進担当

〒745-0045

山口県周南市徳山港町1-1

TEL(0834)22-8372

FAX(0834)22-8375

<http://www.city.shunan.lg.jp>